YouTubeのご案内

京都大学図書館機構のYouTubeチャンネルを開設しています！
KULINEの利用案内や文献検索の動画を公開中です。ぜひ一度ご覧ください。

Be sure to check out the YouTube channel of the Kyoto University Library Network!

京大図書館きこうチャンネル
https://www.youtube.com/@kulibrarynetwork

環onのご案内

【Opening hours】weekdays 8:40 - 18:30
【Access】人間･環境学研究科棟1F東側

※ご利用には学生証または図書館利用証が必要です。
※オンライン授業にご利用いただけます。
※蓋つきの飲み物は持ち込み可能です。
　食事はご遠慮ください。

人間･環境学研究科棟の1Fには、「話せる図書館」がコンセプトの環onという部屋があります。
こちらでは発話をともなうオンライン授業の受講も可能です。

Wa-on is a library where you can talk. You can take online classes there.

京都大学 吉田南総合図書館（愛称：逍遥館（しょうようかん））〒606-8501　京都市左京区吉田二本松町
Tel：075 (753) 6524, 6525　Email：a30yslib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
Web：https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/　X（Twitter）：@yoshidasouthlib

Web

No.14　2024.10.1
Kyoto university Academic LIbrary Newsletter

K A L I N

特別企画（裏面）

紙上再現レポート
先輩による卒論・修論相談会
Workshop on thesis writing by Senpai (Japanese only)

イベントスケジュール
Schedule
2024年度後期開館日程表
Second Semester Calendar for 2024

開館日程表 <2024年度後期> / Calendar

吉田南総合図書館は、前期、下記の予定で開館いたします。なお、必要に応じ臨時に閉館する場合がございます。最新の開館日程については、X(Twitter)やwebサイトにてご確認ください。

There might be a change in schedule. Please refer to our X(Twitter) or website.

00 9:00-20:00　00 10:00-15:00　00 休館 / Closed　00 定例休館(環on開室) / Closed

10

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

イベント予定 / Schedule

■ **秋季入学者オリエンテーション**
8月19日-9月27日

■ **百万遍句会　Part2**
10月7日

■ **冬季休館**
12月27日-1月3日

■ **後期講習会**
おさらい講習会(仮)
1月頃を予定

■ **春季休館**
3月25日-4月3日

■ **Virtual Tour**
August 19th - September 27th

■ **Hyakumanben *Haiku* Gathering Part2**
October 7th

■ **Closed in winter**
December 27th - January 3rd

■ **Guidance session**
Writing Reports and Papers:
What You Need to Know
Scheduled for January

■ **Closed in spring**
March 25th - April 3rd

図書館からのお知らせはこちらでCheck！→

吉田南総合図書館
X(Twitter) @yoshidasouthlib

京都大学図書館機構
The Kyoto University Library Network

おしらせ / News

1階に書架を増設したことに伴い、本の移動作業を行いました。お探しの資料が見当たらない場合は、スタッフまでお声がけください。

We moved the books because we added book racks on the 1st floor. If you cannot find the material you are looking for, please contact staff.

裏面につづく

紙上再現レポート

先輩による卒論・修論相談会

先輩三人で後輩に寄り添ってみた

※この記事は二〇一四年七月八日に行われた「先輩による卒論・修論相談会」での内容から一部抜粋、編集したものです。事前に募集した質問に先輩が答えました。

Q テーマはどうやって選んだの？

Y 僕は『リサーチのはじめかた』[*1]という本をお薦めします。経験上、テーマそのものをどう選ぶかが難しいですよね。研究をどうやるかという本はたくさんあるけれど、そもそも、テーマをどうやって見つけてくるのかっていう説明が他の本ではなかなか書かれていない。この本ではそこが紹介されています。また、この相談会で話す僕らの経験からも「こういうふうに見つけた人もいるんだな」と参考にしてもらえたらいいなと思います。

K 「トピックにどうやってたどり着くのか」ですが、私の専門の倫理学では「これっていいの？悪いの？」といったトピックをメインの問いにしがちなので、身の回りで「これっておかしくない？」みたいなネタを拾いやすかったです。

逆に言うと、その問いを、専門分野の中にどう当てはめるのかが難しかったです。新しいことを卒論レベルでやろうとするのは正直かなり大変です。卒論って、学部で卒業する人にとっては「集大成だ」と感じやすく、大きな問いにしたくなりがちです。でも、身も蓋もない話ですが、卒論はアカデミックな文章を書く練習なんですよね。

なので「問い」で言うと、先輩には「もう何でもいいから早く決めてとりかかれ」って言われることが多かったんですよね。「とりあえず選んで走り出すんだ」みたいな。

問いそのものが見つからない時は、概論書や入門書を二冊読みなさいと先生からよく言われましたね。一冊目が外れても二冊目を読んだらカバーできることが多いから。でも、やっぱり「問い」をどう特定の分野に落とし込むか、が大変でしたね。

Y 僕の場合も結構似た壁がありました。でも、やっぱり自分が好きなことをやるのがいいと思うんですよね。特に文系の学問においては自分でテーマを決めることが多いと思うんですよ。自分が興味を持っているものをまず選ぶといいと思います。特に最初は幅広く考えることが大事です。

それはこの本（『リサーチのはじめかた』）にも色々紹介されています。「まずは自分が興味のあることをざっくりでいいので選ぶ。それをGoogle Scholar（スカラー）[*2]やCiNii（サイニィ）[*3]などの検索サービスで一度調べて、検索結果を全部見る。その上で、この文献や資料は面白そうだと思ったらそれに○、微妙かなと思ったものには△、のようにとりあえず振り分ける。それを二十四時間寝かせて、一日経ってからもう一回見て、本当に興味があるかを確かめる」みたいな実践的な方法が紹介されてる本です。正直言うと僕はそこまでやってないです笑

ただ、実際やっていく中で、広く見ること、問いを複数広げられるぐらいの視野で見ておくことが大事だなと思いました。最初に自分が興味を持ったものから、どういうふうに捉えることができるかを初めのうちに色々試していく。どこなら卒論や修論で分量的に一番充実した内容で取り組めそうかを絞り込んでいくっていうやりかたがいいんじゃないかなと思います。

K それで言うと日々の生活でネタを探すアンテナを張っておくのはすごく大事だと思います。漫然と本を読むよりも、興味が出るものを探そうと思いながら読んでいたら「これって何でだろう」という問いを見つけやすくなる。他の人が面白いと感じるトピックは何だろう、などを意識する視点も養われる気がします。

C そうですね。

Q テーマを広げすぎて内容がぼやける…

Y 文系の特徴なのかもしれませんが、学術書や新書だけじゃなくて、ニュースなどで実社会がどういうふうに動いてるか、よく観察するのも大事だと思いました。特に社会科学、つまり経済学とか法律学、政治学などは、比較的観察しやすく客観的な指標に置き換えやすい分野だと思っています。

K これに関しては『論文の教室』[*4]という本がお薦めです。どの本にも書いてあると思うんですが、問いはとにかく小さく細かく設定すべしのようです。自分のテーマがぼやっとしているなら、その中でどういう構図になっているのか考える。例えばAとBとCっていう内容があって、AとBはCの結論の前提、つまりその材料になってるな、AはBの補助かな、というように分析できたら「今回はAだけにしとこう」というように絞れる気がします。

Y この話は文献先行研究にも関係すると思います。問いを小さくしていく中で「この研究はこの分野」と分類していく形で文献整理をする。それは、問いを意識することでできるのかなと思います。

K 最初はなかなかこれ（文献整理）ができませんでした。トライアンドエラーで、うまくいかないけど進めるしかないという状況でのモチベーションの維持は大事だと思います。博士まで行くとさすがに慣れますか？

C いや、少なくとも卒論の段階では私は雰囲気だけでやってたよ笑

K・Y（笑）

K 見切り発車ってことですか？

C そうですね。私の場合、所属研究室でその年に卒論を書く人間が一人だったということもあって、私は学部四回生の十月ぐらいで「自分が何もしていない」ことに気づいた。

K 締め切りはいつだったんですか？

C 一月末に出さなきゃいけなくて、もう残り三ヶ月しかなかったです。その時点でまだ、テーマにしていたガダマーという思想家の主著『真理と方法』[*5]しかまともに読めてなくて。「もうこれで書くしかない」と思って取り掛かりましたね。

K 文献を読むのって、もっと早くやっておけば良かったって絶対後悔しますよね。夏休みぐらいから読み始めたほうが良さそう。

C 「バッて決めてガーって読めば、なんかいけんじゃね？」って思うけど、まあそんなにうまくはいかないわけですよ。浅はかにも当時の私は『真理と方法』だけとりあえず読んどきゃなんとかなるんじゃないかと思っていましたが、そんなに調子良くはいきません。もちろん先行研究も読んだほうがいいけど、人から言われてもだその大事さが分かっていなかった。「どうしてそんなもん読まなきゃいけないの」と思ってしまってあんまり読む気になれないわけです。

問いの大きさの話ですが、それを決める時って、文字数や問いのスケールを限定するだけで結構時間がかかる。それらを限定する作業があることが、書く前からは分かってないものだけどね。

例えば、私の場合だと『真理と方法』の第二部に関して、著者のガダマーが言及や批判をしている古い哲学者は誰々だから、その人をガダマーがどのように批判しているかに着目しながら読む、そんなふうに限定して、問いの大きさがそこに収まるようにしたりするわけです。

そうすると、何を調べたら良いかも見通しが立てやすくなる。そういったことを探るためなんとなく書いてみる。なんとなく「ここ分からん」みたいな仕方で問いを区切る。なんとなく書いてみるってのが一回目は全然見えないまで分からなかったんだけど、この時の作業量が莫大に大きかった。「テーマなんてつかめない、自分が卒論で何をしたいかなんてよく分からない」と思いながらも、とりあえず何か書いてみるってのが大事です。

K それで言うと「分かんないから書けない気がします。分からないから進められない、だとマジで一歩も進まない。とりあえず分かんないけど読むか、分かんないけどこのパラグラフのまとめは多分これなのかな、みたいに、本当に手探りでやっていく感覚が強かったですね。もがきながらやってたら多分それはうまくいってるってことじゃないかなっていう気がします。

Q 先行研究の際に役立った方法は？

Y レビュー論文っていう種類の論文があります。社会科学系の分野は特に盛んだと思うんですけど、テーマについて分析するタイプの分析系の論文と、これまでの分析系の論文をまとめてレビューした論文っていうのがあるんですよ。

K それは便利ですね。

Y 一番有名なのがアニュアルレビューっていうもので、'Annual Review of 何々'ってのがあるんですよ。それは政治哲学系では結構有名です。

例えばですが、僕が一番読んでいるのは、'Annual Review of Political Science'[*6]というもので、これまでのポピュリズム研究や、ポピュリズム研究はどういうものがされてたか、みたいなものを扱う研究がまとめられていて便利です。

あとは書評ですね。これまでの人がどのように研究を批判していたか調べる。書評の中にも参考文献が引用されてますから、そこから文献を広げていくっていうやりかたもあります。

C 書評やサーヴェイ論文（レビュー論文）の参考文献リストね。

K そういうリストから本を探せば、実はテーマが全く違う本を読んでしまうという失敗も少なくなりますよね。読んだ本から芋づる式に次の本を探すのが確実だと思います。

C それで読み進めていって、もしその論文の論点が自分の知りたがっていたことと合わなくても、またそれで何か別の新しいことが分かったりすることもあるしね。

Y あともうひとつ。そういう作業をある程度やったら、自分が興味ある分野はこの研究者がすごく真剣に取り組んでるなってことが分かってきます。その人のGoogle Scholarを調べてGoogle Scholarアラートっていうのを設定できるんですね。ちなみにGoogle Scholarっていうのは、Googleのアカデミックな情報検索専用のページです。通常の検索窓に「Google Scholar」と入れて検索するだけで移動できます。

アラートの設定はどうやるかというと、Google Scholarのホームページに自分のGoogleのアカウントで入って、そこで研究者のGoogle Scholarのページを開くと、メールボタンみたいなのがあるんですよ。それを押すとその人が何かパブリッシュした時に自分のメールに通知が来ます。それから、その人がやった研究が誰かの論文で引用された時、つまり被引用の場合もメールが来ます。

K 気になる研究をリアルタイムで追えるんですね。

Y そうなんです。だから僕のGmailはGoogle Scholarからいっぱいメールが来る笑　とりあえず最新の研究動向を追うこともできるのでお薦めです。

K これは最新のものを追う方法って感じですね。気になる人が決まった後にもうひたすら読むぞみたいなモードの時に使うってことですね。

Y ちなみに画面を開くと、検索窓の下に「巨人の肩に立つ」みたいな名言が出てくるんです。これは研究でよく言われるもので、今までの偉人が積み重ねてきたものの力を借りて視野を広げるって意味なんですけど、すごく励まされますよね。

Q モチベーションの維持は？

Y 千年に一人の天才じゃなきゃ、自分しかやってないテーマなんてないですよね。でも他方で自分にしかない、他の人が思いついてないテーマって意外とあると思うんです。近いテーマだったら誰かやってるけど、このテーマは僕しかやってない、この着眼点は今のところ僕しか持ってないなというものがあれば、なんかその瞬間、自惚れですけども、特別になったって感覚ができて、ちょっと頑張ってみるかと。

あとはまだ自分が若いから言えることだ思いますけど、今はあんまり成果にこだわらず研究できていますね。自分の論文をどっかにパブリッシュしてそれがアクセプトされて、って業績を作ることはいずれ考えないといけないですけど、今に関しては業績よりも自分の好きなことを研究する方が楽しいじゃんっていうマインドで取り組んでいる。今はこうやって余裕ぶっこいてますけど今後はどうかちょっと分かんないですけどね笑

K 確かに、何事もやるなら楽しくやれたらっていうのはあると思いますね。無理しない範囲で日頃からちょっと頑張ると良い気がします。

注釈

＊1『リサーチのはじめかた』筑摩書房

＊2 Google Scholar　Googleが提供している無料の論文検索エンジン

＊3 CiNii Books　論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース

＊4『論文の教室』ＮＨＫ出版

＊5『真理と方法』法政大学出版局

＊6『Annual Review of Political Science』

答えてくれた先輩たち

Yさん
大学院法学研究科　修士2回生
専攻：現代政治学・政党政治

Kさん
大学院文学研究科　修士1回生
専攻：哲学倫理学

Cさん
大学院人間・環境学研究科
博士課程3回生
専攻：哲学（文献研究）